

27年度度内閣府地区防災計画モデル事業 あわら市吉崎・加賀市吉崎町合同防災訓練

平成27年10月25日 日本海沖地震発生
「大津波警報発令 至急小学校へ避難」

命はひとつ

吉崎防災会



県境またぐ町「吉崎」



地区の中に県境が通る
あわら市・加賀市の中心部から
は離れている

地区防災訓練を共同で実施しよう

- 今まで、石川県吉崎地区とは行政の違い等もあり共同での地震・津波対処訓練を行っていなかった。石川県吉崎地区は避難訓練をしているが、福井県吉崎地区は地域清掃中。何してる？何で吉崎小学校へ行くのだろうか
- 昨年、石川県吉崎地区の自主防災組織(三木地区自主防災会)からの働きかけで、自主防災研修に参加
- 分かったこと①日本海沖地震の津波想定が違う②石川県吉崎地区の避難場所は福井県吉崎小学校③逃げるところから避難の始まり
- 自主防災訓練の必要性を感じる
- 石川県側自主防災組織との勉強会、福井震災経験者から当時の倒壊・危険を防災マップに載せ、災害予想ハザードマップの作成を共同して実施
- 今年度: 県境を跨いで共同で地震津波防災訓練を初めて実施

訓練模様



地域防災訓練の総括

- 防災無線スピーカーからの声が聞こえない
⇒大きな地震を感じたら、まず逃げる(命はひとつ)意識の醸成⇔携帯に情報入る
- 海の地震・内陸の地震で逃げ方が異なるか
⇒まず逃げる(命はひとつ)⇒避難場所で判断⇒救助・情報可能か
- 福井震災で倒壊した場所を逃げて来ている→逃げ道迷っていたらアウト
⇒早く避難して来れる人が、誘導(津波の場合、避難場所に近い所で)
- 声をかけて逃げる⇒玄関先に出て来た弱者を、逃げる人で協力して搬送
- 家族で話し合い(皆が逃げ道を確認・非常持ち出しの確認・子供の誘導方法)

毎年地域防災訓練実施⇒実施目的と課題を明確にして取り組む

- ①防災意識を持たせる⇒訓練時非常持ち出し袋持参＝各家庭非常持ち出し整える
- ②避難場所の運営
- ③防災組織の見直し→最重要班＝救助・情報→救急⇔災害時の緊急班の充実

今年度も「吉崎は一つ」で課題克服に挑戦

5月実行委員会設置 ⇒ 11月の加賀市防災訓練時、地域防災訓練実施